

## 第二期北区子ども読書活動推進計画（案）パブリックコメント実施結果について

意見募集期間：平成21年1月20日（火）～平成21年2月20日（金）

意見提出者数：3名（内訳）持参：2名、郵送：1名

意見総数：15件

周知方法：北区ニュース1月20日号、ホームページ、区政資料室、区立図書館

提出された意見の概要とそれに対する区の考え方は以下のとおりです。

### 第1部 基本方針

#### 第1章 計画策定の背景

##### 2子ども読書活動を取り巻く現状

NO	意見（要旨）	件数	区の考え方
1	小学校高学年の読書冊数が減っているが、その原因についての分析がされていない。次へのステップとして現状分析は欠かせない。	1件	小学校高学年からは、生活形態の変化が読書活動の時間にも影響し、読書傾向も変化してくるなど、読書活動の動向を数量だけで捉えにくくなってきます。第二期計画では、「調査・研究・評価の実施」（P26）を位置づけ、現状分析に努めてまいります。

### 第2部 具体的な取組み

#### 第1章 年齢・発達の段階に応じた取組み

##### 1. 未就学児を対象とした取組み

NO	意見（要旨）	件数	区の考え方
1	ブックスタート事業は、子育て支援という側面がある一方で、3・4ヶ月から始めることができる読書習慣、読書活動推進のための宝のような事業である。図書館の第一主要事業と位置づけてさらに充実するとともに、関係部署との連携強化を図ることが必要である。	1件	ブックスタート事業については、絵本を通して赤ちゃんと保護者が豊かで楽しいひと時を過ごすことを図書館の主要事業として位置づけ、継続してまいります。また、関係各課とともに、多くの区民や地域と協力して、取組みを広げてまいります。
2	3歳児絵本プレゼントは、「3歳児健康診査」時に会場で手渡し配布すれば、63%が90%になると思う。63%では、主旨が生かされておらず残念である。	1件	3歳児絵本プレゼントは、近隣の図書館を知ってもらい来館していただくきっかけ作りの事業です。配布率の向上のため、PR等の工夫をしております。

## 2. 小・中学生を対象とした取組み

NO	意見（要旨）	件数	区の考え方
1	「自分で選択し読む」移行期である小学校5・6年生から中学校2年生を主とした、「聞く」行為から「考える」そして「意見」を構築し、述べ、交換するという機会が、本を通して多く作られることが必要である。	1件	今回の計画では、年齢や発達の段階に応じた具体的な読書活動の推進を掲げています。あらゆる段階において、ボランティアや地域、区民の方々と連携し、読書会など本を通じた様々な機会を設けるとともに、子どもたちに必要な読書環境の充実を促進します。
2	生徒の読書会リーダーの育成及び育成のために本を読み意見交換ができる場を作る。（参加型読書活動）	1件	
3	図書館にボランティア・保護者を巻き込み、子ども主体の図書選定や、読書会を行えるようにする。	1件	
4	読書会等への講師料や会場費などを補助するシステムを作る。	1件	
5	図書館との協働も視野に入れ、幅広い視点に立って切磋琢磨し、子どもたち中心の読書環境を作る。	1件	

## 3. YA（中高生）世代を対象とした取組み

NO	意見（要旨）	件数	区の考え方
1	YAサポート隊の編成などが書かれているが具体性に欠ける。ブックスタートからの出発がこのあたりで途切れているように思う。 YAサポート隊活動を始めたことはいいことなので、サポート隊を育てていくための仕組み作りが重要と思う。	1件	YAサポート隊の活動については、平成20年度後半から始め、参加者とともに試行錯誤しながら進めており、今後、具体的な取組みをとおした仕組み作りを行っていきます。
2	ブックトークが学校でどのように行われているのか、読書冊数はどういう変化をしているのか示してほしい。	1件	個々の具体的な活動の現況については、表に載せておりませんが、機会をとらえて、情報提供してまいります。 また、読書活動の変化等の調査について、第二期計画で実施する予定です。

## 第2章 連携・協力

NO	意見（要旨）	件数	区の考え方
1	今の子どもが置かれている状況の一番大きな変化は、親と子どもの中間を繋ぐ世代が身近にいないことである。単に資料の流用等の交流ではなく、人の交流も考える必要があり、例えば中学校などのブックトーク、小学校での読み聞かせなど、大学の幼児教育課程の人たちとの交流など考えること、やることはいっぱいあるのではないか。	1件	近隣大学、区内高校生徒の協力体制を作り、高校・大学生による読み聞かせなどのボランティア活動の推進を図る中で、交流事業などを構築していきます。

## 第3章 施設・設備の充実

NO	意見（要旨）	件数	区の考え方
1	学校現場は、教育の場としてやらねばならないことが多く、教職員も多忙である。学校図書室は、鍵がかかっていたり本がほこりをかぶっていたり、冷たく暗い。予算配分、専門職の配置、施設設備の充実等、問題は山積だが、学校図書室を明るく親しめる場所にする（変えていく）ことこそ、小中学生を本好きにする近道であり、何事にも先がける行政の英断こそ必要である。	1件	「魅力ある図書館づくり」事業により、学校図書館の環境改善が図られ、図書資料予算も以前に比べて増加しています。専門職員の配置等の課題がありますが、学校と公共図書館の連携や、保護者やボランティアの方々の協力を得てさらに明るく親しみのある図書館づくりに努めます。
2	学校司書、専門職の配置と図書の充実をセットで行う。	1件	
3	学校図書館の、科学、世界の事情がわかる社会・人類科学系の図書の充実を急ぐ必要がある。	1件	「総合的な学習の時間」が創設された際に、各学校において調べ学習対応の図書を多く購入しています。また、今回の学習指導要領改訂に基づき、「横断的な学習」「総合的な学習」「探究的な学習」に対応した図書資料の選定をしていく予定です。
4	少なくとも先生が出す調査学習の基本は学校図書館で行えるよう、図書を整備した上で公共図書館と相互乗り入れをすべきである。	1件	

